

東海大学 vs 東京農業大学

5月26日(日)
11:30K.O.
東海大G

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 2 部リーグ

第 9 節 東海大学 vs 東京農業大学の試合は

東海大学からの出場辞退の申し出を受けたため、東海大学の不戦敗(0-3)となります。

神奈川大学 vs 駒澤大学

5月26日(日)
13:50K.O.
東海大G

4 連敗で 7 位に後退し、なんとしても連敗を止めたい神大と、首位と勝点 6 差でこれ以上離されたくない 2 位・駒大との対決は、激戦が予想される。

ついに 4 連敗を喫してしまった神大。前半戦の安定感がすっかり影を潜め、今節は出場停止も 2 人と、やや歯車が合わなくなっているのが気になる。前節は、拓大と対戦して退場者も出し 2-5 で敗れた。お互いに連敗を止めたい拓大との対戦で、立ち上がりから点の取り合いとなり、まず前半で 2 点を先行される展開に。52 分に PK で同点としたものの、65 分に 3 点目を奪われると集中力が途切れてしまい、その後さらに 2 点を献上してしまった。「良くないところがすべて出てしまった。2 点を追いついたが、そこから大きく崩れてしまったのは非常に残念」(高峯弘樹監督)。ここ数試合は失点数が増えているが、得点力 No. 1 の駒大をどこまで抑えられるか。

その駒大は前節、東学大との重要な 2 位・3 位対決を 4-2 で制した。前半にミドルシュートから先制を許し、後半立ち上がりに追加点を奪われ嫌なムードになりかけたが、51 分に MF 碓井鉄平(4 年)が FK を直接決めると反撃開始。前半は東学大の細かいパス回しへの対応に苦慮していたが、風上に立った後半は得意のロング

ボールを生かして主導権を握り、得点ランクトップを走る FW 山本大貴(4 年)の 2 得点などで 4 点をもぎ取った。この日は守備陣をやや変更し前半の守備には課題が残ったが、「前半終わり頃からスペースを開けず守れるようになった。0-2 になっても気持ちが切れずポジティブで逆転につながった」(秋田浩一監督)。昨季、一つの敗戦の大きさを知っただけに、今節も粘り強く戦いたい。

<出場停止> 杉山佑亮・芦野翔斗(神大)
<昨年の対戦> リーグ戦での対戦はなし

神大		駒大	
3. 高木	11. 星	23. 久永	13. 大木
2. 柿崎	17. 盛	9. 小牟田	15. 川岸
	16. 前田		6. 若山
31. 池村			21. 檜山
	7. 長野		7. 碓井
34. 西袋	10. 伊東	10. 山本	4. 平尾
	22. 伏木		11. 小牧
6. 秋山			3. 田中

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています *

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2013-NO.9



編集: 五味亜矢子 印刷: 関東大学サッカー連盟 協力: 関東大学サッカーサポーターズクラブ

前半戦最終節! 注目は埼玉勢対決

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 2 部リーグは、早くも前半戦の最終節を迎えた。第 8 節は首位の東国大が東海大の出場辞退により不戦勝となり、それを追う 2 位・駒大と 3 位・東学大の対決が注目されたが、お互いの持ち味を出した熱戦の末、2 位の駒大が 4-2 で勝利した。不戦勝をはさんで 2 週間ぶりの公式戦となった関学大は法大を 2-1 で下して 4 位に、神大から 5 得点を奪って勝利した拓大が 8 位にそれぞれ順位を上げた。また、平国大-青学大は 0-0、朝鮮大-東農大は 1-1 でそれぞれ引き分けに終わった。今節の注目は、前半戦全勝を狙う東国大と、関東リーグでは 1 年先輩である平国大の埼玉勢対決。お互いに相手を知り尽くしているだけに、非常に興味深い対戦だ。

得点ランキング		アシストランキング	
8: 山本 大貴 (駒大)	4: 佐伯 拓磨 (東国大)	5: 佐伯 拓磨 (東国大)	4: 田中 雄一 (駒大)
6: 小牟田洋佑 (駒大)	4: 田中 雄一 (駒大)	4: 田中 雄一 (駒大)	3: 高橋 明嗣 (東国大)
5: 伊東 純也 (神大)	3: 高橋 明嗣 (東国大)	3: 高橋 明嗣 (東国大)	碓井 鉄平 (駒大)
星子 直哉 (平国大)	碓井 鉄平 (駒大)	碓井 鉄平 (駒大)	茶島 雄介 (東学大)
4: 山崎 直之 (東学大)	茶島 雄介 (東学大)	茶島 雄介 (東学大)	今野 順 (東農大)
西岡 梧郎 (拓大)	今野 順 (東農大)	今野 順 (東農大)	長野 祐太 (神大)
内野 裕太 (")	長野 祐太 (神大)	長野 祐太 (神大)	西岡 梧郎 (拓大)
	西岡 梧郎 (拓大)	西岡 梧郎 (拓大)	

今季の関東大学リーグはイレギュラーな形ではあるが、とにもかくにも前半戦最終節、どのチームも勝って後半戦につなげたいことは間違いない。最後に勝利をつかむのはどのチームか。

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第 8 節終了時)

順位	2部	東国大	駒大	東学大	関学大	青学大	東農大	神大	拓大	平国大	朝鮮大	法大	東海大	勝数	負数	得点	失点	得失差	勝点
1	東国大		100	201	401	未定	未定	100	301	5/26	201	400	300 (没収)	8	0	20	4	16	24
2	駒大	0●1		402	200	401	302	5/26	200	3●4	未定	未定	401	6	2	0	22	11	18
3	東学大	1●2	2●4		5/25	0●1	201	未定	201	301	200	未定	201	5	3	0	14	11	15
4	関学大	1●4	0●2	青学大G		0△0	0●3	未定	未定	300	400	201	300 (没収)	4	3	1	13	10	13
5	青学大	未定	1●4	100	0△0		1△1	201	5/25	0△0	1●2	401	未定	3	2	3	10	9	12
6	東農大	未定	2●3	1●2	300	1△1		1●3	200	未定	1△1	100	5/26	3	3	2	12	10	11
7	神大	0●1	東海大G	未定	未定	1●2	301		2●5	301	201	1●2	1●2	3	5	0	13	15	-2
8	拓大	1●3	0●2	1●2	未定	青学大G	0●2	502		2●3	100	201	未定	3	5	0	12	15	-3
9	平国大	朝鮮大G	403	1●3	0●3	0△0	未定	1●3	302		未定	1△1	2●3	2	4	2	12	18	-6
10	朝鮮大	1●2	未定	0●2	0●4	201	1△1	1●2	0●1	未定		5/26	401	2	5	1	9	14	-5
11	法大	0●4	未定	未定	1●2	1●4	0●1	201	1●2	1△1	朝鮮大G		402	2	5	1	10	17	-7
12	東海大	0●3 (没収)	1●4	1●2	0●3 (没収)	未定	東海大G	201	未定	302	1●4	2●4		2	6	0	10	23	-13

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

ゴールは、自分の中にある。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/



RECRUIT

拓殖大学 VS 青山学院大学

5月25日(土)
11:30K.O.
青学大G

連敗を脱した拓大と、2連続引き分け中の青学大との対戦。拓大攻撃陣は前節5得点と爆発したが、鳴りを潜めている青学大攻撃陣の復調はなるか。

拓大は前節、神大と対戦して5得点を奪い、5-2で第3節以来5試合ぶりに勝利を収めた。4連敗中の戦いでは最後に競り負ける悔しい敗戦が続いてきたが、前節は2点のリードを追いつかれながらも再び突き放しての大勝に、玉井朗監督も「久しぶりに快勝できて嬉しい。皆の頑張り、応援も力が入って一体感があって満足げであった。2点のリードを追いつかれても下を向くことなく、先に3点目を奪ったのが大きく、特に2得点2アシストのFW西岡梧郎(3年)の活躍が光った。攻撃のリズムは悪くなかったが、得点という形につながってきたのは好材料。今節も力強い攻撃を見せることができるかどうか。

対する青学大は前節、平国大と対戦してスコアレスドローに終わっている。開幕戦こそ4-1で勝利した今季だったが、その後は失点が増えたことで守備面を改善。その前の試合で駒大相手に4得点をマークした平国大を無得点に抑えたものの、一方で攻撃面はふるわなかった。前半はプレッシャーの早い平国大の出足に先行され、後

半はボールを保持する時間は増えたものの、「どういう崩し方をするかという工夫ができなかったのは、次への大きな課題」(宮崎純一監督)。昨季10位に終わった最大の課題でもある守備面の安定は図られてきただけに、本来の攻撃力を発揮して前半戦を終えることができるかどうか。

<出場停止>なし / 3回警告:内野裕太(拓大)
<昨年の対戦>前期/拓大3-2青学大、後期/拓大5-0青学大

拓大	青学大
23. 小針	39. 石原
29. 加藤	23. 本城
3. 丸山	16. 京谷
9. 西岡	18. 関谷
31. 吉田	8. 後藤
21. 小林	6. 高山
20. 片	40. 高橋
5. 金子	28. 伊藤
11. 内野	4. 中村
33. 唐澤	22. 恵
2. 西本	20. 服部

平成国際大学 VS 東京国際大学

5月26日(日)
11:30K.O.
朝鮮大G

平国大と東国大という埼玉県勢対決。現時点では勝点差こそあるが、お互い関東リーグ昇格を目指し切磋琢磨してきた、いわば“同志”。関東リーグの先輩として平国大が東国大の全勝を阻む最後の砦となれるかどうか。

その平国大は前節、青学大と対戦してスコアレスドローに終わった。その前の試合で駒大に4-3で勝利した勢いを持ち込みたかったところだが、お互いにしっかりパスをつないだ攻撃の組み立てで攻め合いながら、相手ゴール前で決定的な形をつくることはできず。一方で、今季初めて無失点のゲームとなり、青学大のパス回しにも粘り強く対応したことに西川誠太監督も一定の評価をしつつ、「無失点試合をやりたいたわけではない。後半は相手にボールを持たれてしまった」と話した。東国大についてはどのチームより良く知っており、昨季の対戦では勝利している。「こういう舞台で対戦できるのは良いこと。お互い良いゲームをしたい」(西川監督)。

対する東国大は、前節は不戦勝のため試合がなく、今節は2週間ぶりの公式戦となる。その前の試合では、朝鮮大と対戦してロスタイムにオウンゴールで勝ち越しての勝利で、前田秀樹監督は「難しいゲームになると思っていたし手ごわい相手だったが、うちに運が向いていた

のかなと思う」と話した。セットプレーから先制点を奪ったものの、70分に追いつかれてからは猛攻を受けて苦しい展開に。しかし、守備陣の粘りで追加点は許さず、「最後まで点を取りに行く姿勢が勝ちにつながった」(前田監督)と、ロスタイムにゴール前に入れたボールが相手DFに当たり決勝点となった。「運は向いているが、自分たちのサッカーで試合を運んでいきたい」(前田監督)。
<出場停止>なし / 3回警告:加藤龍治(東国大)
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

平国大	東国大
16. 増田	29. 斉藤
9. 堀越	11. 高橋
37. 小松崎	9. 福島
15. 鈴木	3. 阿部
30. 馬屋原	10. 若井
33. 福嶋	21. 今野
18. 星子	
6. 本田	26. 佐伯
2. 須藤	19. 谷口
11. 千葉	5. 川島
13. 竹内	17. 小玉
	6. 鹿糠

東京学芸大学 VS 関東学院大学

5月25日(土)
13:50K.O.
青学大G

2位・3位対決に敗れ、上位にやや離されてしまった東学大と、不戦勝による1週間のブランクを経て久しぶりの勝利を収めた関学大との3位・4位対決となる。

東学大は前節、3連勝とのぼり調子で2位の駒大と対戦したが、2-4で敗れた。前半はテンポの良いパス回しからリズムをつかみ、14分にMF平田惇(1年)の素晴らしいミドルシュートで先制。後半も立ち上がり早々に追加点を奪ったものの、その5分後に与えたFKを直接決められ相手に反撃の糸口を与えてしまった。「2-0という展開に注意はしていたが…相手の勢いや流れをどうやって断ち切るかという面で課題が残る」(西園聡史監督)。その後は駒大がDFの背後に蹴り込んでくるボールへの対処に苦慮し、攻撃に転じることができないまま押し込まれ、終盤立て続けに失点。前後半でお互いの持ち味を出した試合ではあったが、最後は力負けとなった。「次の試合が大事。切り替えていきたい」(西園監督)。

一方の関学大は前節、法大に2-1で勝利した。開幕2連勝のあと4試合勝利がなく、そこで東海大との試合が不戦勝となった。1週間のブランクが空いたが、プロチームとの練習試合を組み、結果的には良い切り替えになったようだ。4試合で1得点と得点力不足が目立って

いたが、法大戦は立ち上がりの8分に先制点を奪い、後半に入って追加点と理想的な展開。「前線の選手が相手の背後を取るようにトレーニングしてきた成果が出た」(石村大監督)。終盤に法大のパワープレーから1点を許したが、しっかり守り切った。不戦勝はあったが実質は3勝目。悪い流れを断ち切って良いリスタートとなっただけに、さらに順位を上げて前半戦を終われるかどうか。
<出場停止>なし
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東学大	関学大
5. 廣木	6. 木村
14. 佐藤	8. 山本
15. 菅	11. 萱沼
7. 山崎	3. 土館
30. 平田	14. 佐藤
12. 須賀	1. 守山
10. 茶島	7. 太田
2. 大里	11. 遠藤
11. 遠藤	10. 橋村
8. 佐々木	4. 久保
28. 吉田	9. 富樫
	32. 吉田

法政大学 VS 朝鮮大学校

5月26日(日)
13:50K.O.
朝鮮大G

またも順位を落としてしまった法大と、10位の朝鮮大という同勝点同士の対決。順位的に下位同士の戦いだけに、激しいゲームとなりそうだ。

法大は前節、関学大と対戦して1-2で敗れた。その前の試合で4試合ぶりの勝利を挙げ、良い流れをつなげたかったところだったが、不戦勝の影響で2週間ぶりの公式戦となった関学大に立ち上がりからの勢いを持っていかれてしまった。前の試合から3バックに変更したDFの背後を関学大FWに突かれ、試合開始早々の8分に先制点を奪われ、後半も先に追加点を許した。大石和孝監督が「うまい下手ではなく、ゴールに向かう姿勢をもっとつけない。シンプルに確実に速く、ということ徹底したい」と話したように、86分に1点は返したが、思うように得点できないことがすべての歯車を狂わせている。後半戦に向け、何かきっかけをつかみたい。

対する朝鮮大は前節、東農大と1-1で引き分けた。徐々に試合内容は上向いてきていたが、東農大戦は全般的にゲームを支配され、結果的には金載東監督が話したように「苦しい展開で、どうにか引き分けを拾ったというのが正直な感想」という内容であった。東農大の出足の良さにセカンドボールを拾われ、押し込まれる展開と

なり、守備的にならざるを得なくなった。そんな中でセットプレーから先制点は奪ったが、その1点を守り切ることはできず。朝鮮大らしいプレッシャーの早さや球際の強さを見せられずじまいだったが、昨季2試合とも1点差で競り合った法大に勝ち切ることができるか。
<出場停止>なし / 3回警告:田代雅也・松本大輝(法大)、慎鏞紀(朝鮮大)
<昨年の対戦>前期/法大4-3朝鮮大、後期/法大1-2朝鮮大

法大	朝鮮大
23. 三田	23. 安泰永
13. 木村	7. 尹昌洙
18. 鈴木	16. 韓勇俊
28. 西室	22. 慎鏞紀
21. 田村	21. 康貴成
2. 宗近	1. 李在根
16. 松田	
6. 星	6. 任良太
27. 田代	14. 朴利基
14. 松本	3. 李教俊
17. 森保	17. 高志煌
	2. 李永照